

# Bird Research Annual Report 2016

バードリサーチ活動報告



NPO法人 バードリサーチ  
Japan Bird Research Association

## バードリサーチが 目指すもの



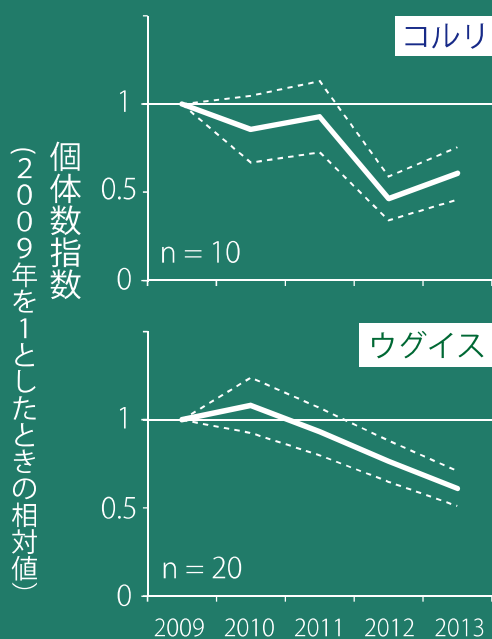
コルリ (Photo: 星野雄軌)

バードリサーチでは、全国の鳥の生態や生息状況に興味を持ち、調べてみよう、という皆さんとのネットワークを築いています。そして、参加された皆さんも、私たち自身も、わくわくするような調査を行い、そこから得られた成果を鳥と人との共存に活かしていくことを目指しています。

どこにでもいると思われていた鳥が急激に減少していることがヨーロッパで報告されていますが、日本でもスズメの減少が話題になりました。バードリサーチが行なっている調査でも、藪に生息しているコルリやウグイスの減少が明らかになっています(下図)。すでに危機に瀕している鳥だけでなく、見過ごされがちな普通種の生息状況を継続的にモニタリングすることで、絶滅への兆候をいち早く察知し、保全につなげることも、私たちのひとつの大きな目的です。

今年も会員の皆さまと共に、さまざまな調査や、ネットワークづくり、調査研究の面白さを伝える活動を行なうことができました。ご協力、ご支援いただいた皆さまに感謝し、その活動内容をご報告いたします。

### モニタリング調査から見てきた コルリとウグイスの減少



ウグイス (Photo: 高橋ゆう)

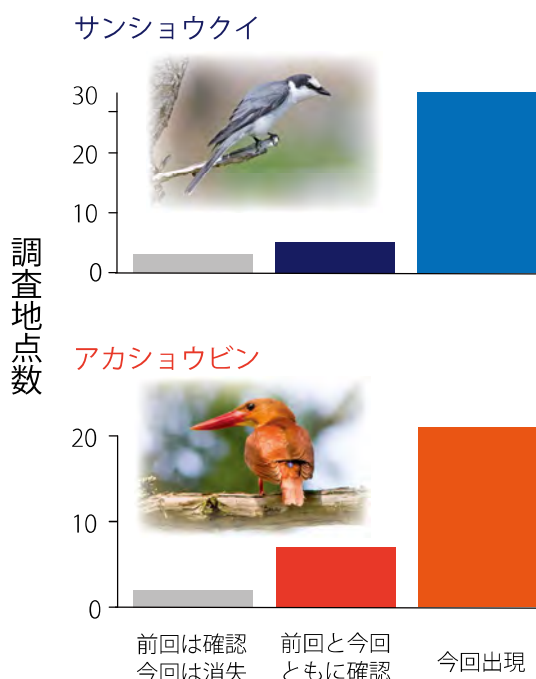
# 森, 草原, 身近な場所の 鳥のモニタリング

家のまわりの身近な鳥の変化を見守る「ベランダバードウォッチ」、年による変化の大きい冬鳥の飛来状況を見守る「冬鳥ウォッチ」、ガビチョウやソウシチョウといった外来種や分布の変化が顕著な種をターゲットにした調査などを実施しています。また、日本の自然環境の変化をモニタリングする環境省の「モニタリングサイト1000」の調査に協力しています。



アカシヨウビン (Photo: 小野安行)

## 夏鳥の復活?



20年ぶりに実施される全国鳥類繁殖分布調査が始まりました。2020年までに全繁殖鳥類の分布を明らかにすることを目指し、日本野鳥の会、日本自然保護協会、日本鳥類標識協会、山階鳥類研究所、環境省生物多様性センターとの共同調査として今年からスタートしました。

まだ始まったばかりですが、ここまでの調査結果からは、大型魚食性鳥類や外来鳥の分布拡大が続いていることや、小型魚食性鳥類の分布縮小が続いている可能性が示されたとともに、前回の調査では減少が心配されていた夏鳥が復活している可能性が示されました。

BRNews 2016年8月:1

### ◀ 前回調査時と今回の生息地点数の変化

サンシヨウクイとアカシヨウビンは、1990年代に行われた前回の調査時には記録されず、今回新たに記録された調査地が多く、分布が回復している可能性がある。

Photo: サンシヨウクイ (大塚之穂)、アカシヨウビン (高橋ゆう)

## 調査員の声



### 岩澤光子さん (全国鳥類繁殖分布調査員)

それまで鳥にあまり興味がなかった岩澤さんは10年ほど前に、東京から北海道に引っ越したのを機にバードウォッチングを始めたそうです。ベテランのバードウォッチャーと一緒に鳥を見ることで、識別能力を上達させていきました。鳥のために自分でも何かできないかと考え、バードリサーチと日本野鳥の会が主催した鳥類調査研修会に参加したのがきっかけで、繁殖分布調査に参加しています。繁殖分布調査に限らず、「調査に参加すれば、鳥はもちろん、他の動植物にも目がいくし、人との繋がりも増えて、とても楽しいので、是非参加してもらいたい」とのことでした。

全国2000か所以上を調査する全国鳥類繁殖分布調査。まだ調査員が決まっていない場所もあるので、是非ご参加ください。



お話を伺った岩澤光子さん(右)とバードリサーチ研究員の佐藤(左)

# 水鳥のモニタリング

—水辺の鳥を調査する—

環境省のモニタリングサイト1000と連携しながら、ガンカモ類やシギ・チドリ類の生息地や渡りの状況を把握するためのモニタリング調査を行なっています。カモ類の分布と生態を調べるための性比調査やシギ・チドリ類の季節変化を調べるための初認情報の収集など、さまざまな調査を実施しています。

ヒシクイ (Photo: 藤井 薫)



## ガンカモ類のモニタリング調査

ガンカモ類の個体数変化を調べる調査を全国190か所で行いました。今年からは調査にドローンを活用しています。2015/16年の冬は温暖であったことから、例年は宮城県で越冬するヒシクイの多くが水域が凍結しなかった八郎瀨で越冬するという異変が起こりました。温暖化の進行によって、今後もガンカモ類の越冬地に変化が起きてくるかもしれません。これまでの調査結果を役立ててもらうため、全国でガンカモ類の数が多い生息地について、毎年の調査記録とガンカモ類がよく利用するエリアをまとめた渡来地目録を編纂中で、近く公開の予定です。

水鳥通信2016年6月



▲凍結が始まったコムケ湖に降りたオオハクチョウ(水上の白点)。ドローンから空撮して個体数調査を行っている。(Photo: 大館和広)

## 調査員の声



### 遠島幸吉さん(モニタリングサイト1000 ガンカモ類調査員)

遠島さんは勤務していた札幌市から故郷の稚内に戻り、たまたま参加した探鳥会がきっかけでバードウォッチングを始めたそうです。その後、大沼バードハウスで勤務するようになり、2010年からモニタリング調査をしています。この調査によって、春の方が秋よりも多くのオオハクチョウとマガンが訪れていることなど、さまざまなことが分かってきたと言います。遠島さんはデータをまとめる事が好きで、バードハウス内には調査結果をまとめた展示資料がたくさんありました。

調査を続けていくことで、鳥を深く知ることができず。皆さまもぜひ調査にご参加ください!



稚内市大沼の前に立つ遠島さん(左)。渡りのシーズンには大沼は数千のハクチョウ類で埋め尽くされる。

# 生物季節のモニタリング

気候変動により、桜の開花時期が早くなったりするなど、生物季節の乱れが心配されています。そこで、全国の皆さんの協力を得て、ウグイスやヒバリの初鳴き、夏鳥や冬鳥の飛来時期、ヤマガラやツバメの繁殖時期などを記録し続けて、気候変動の鳥たちへの影響を明らかにしています。



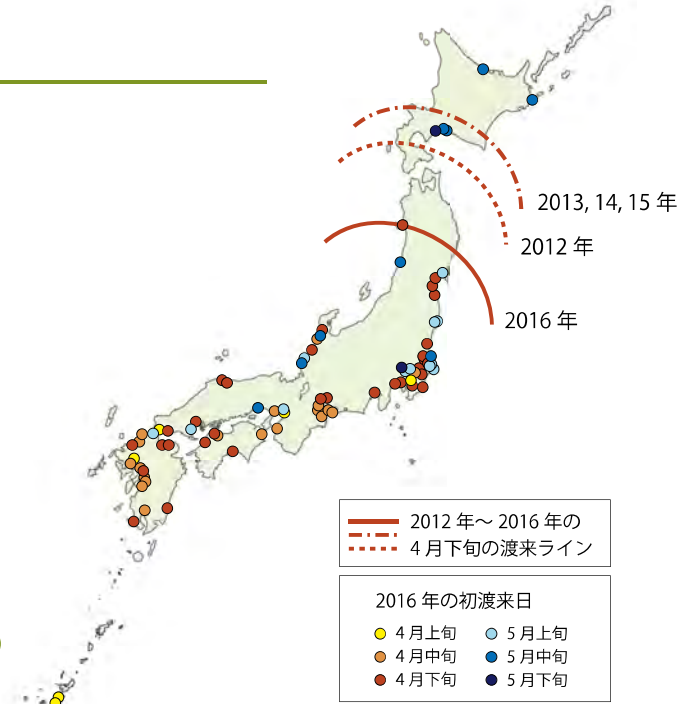
チュウシャクシギ (Photo: 湯浅芳彦)

## シギ・チドリ類の渡りと気象

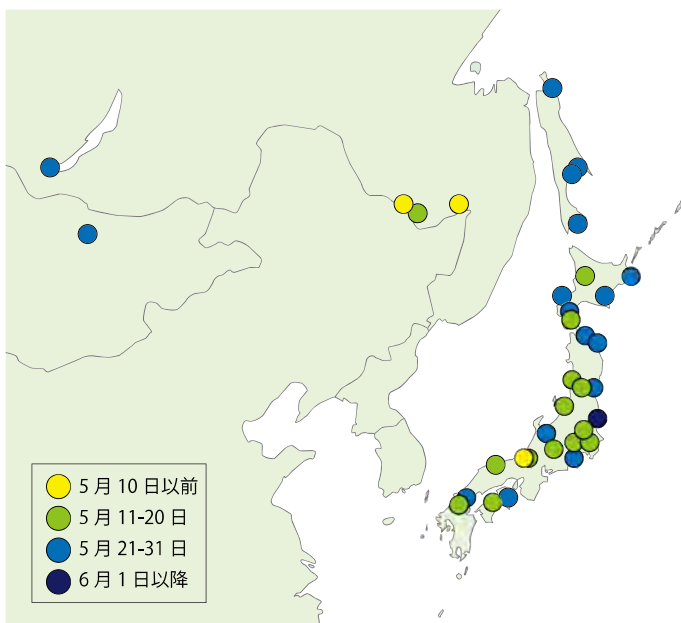
春期に越冬地から繁殖地に向かうシギ・チドリ類の初渡来日について報告してもらい、渡りパターンを調査しています。今春期はチュウシャクシギの北海道への到達が、過去4年に比べ遅くなりました。日本周辺の気象状況から、例年通過する4月下旬に北海道に低気圧が発生して渡りの妨げになったと考えられます。長距離の移動にともなう荒天などの回避をどのように行っているのか、気象状況とシギ・チドリ類の渡りパターンについてデータを蓄積していきたいと考えています。

水鳥通信2016年10月

チュウシャクシギの4月下旬の渡来ライン



## 季節前線ウォッチ、世界へ



これまで日本国内の生物季節を調べてきた季節前線ウォッチが、この春から版図をロシアへと拡大しました。国際会議で会ったロシアの研究者が興味を持ってきて自然保護区のレンジャーに呼びかけてくれたおかげで実現しました。

サハリンは北海道で初認が記録された後に初認されるなど、日本から季節前線が北上していきましたが、大陸側は初認が記録されたのが早く、日本の同緯度の場所よりも季節の進行が早い可能性が伺えました。来年は韓国や中国にも働きかけて、大陸側の季節前線の様子も見てみたいと思います。

BRNews 2016年6月：1

### カッコウの初認日の分布

日本国内だけでなく、ロシアやモンゴルからも情報が届いた。



カッコウ (Photo: 藤井薫)

# 鳥との共存

環境の改変により、絶滅したり急減した種が増えています。またその反面、一部の種は個体数が増加して、人間活動との軋轢が生じ、その解消が社会的に求められています。このような問題を軽減、解消し、人間と自然が共存できる社会を構築するためには、各生物種の分布や生態といった基礎的な情報を収集して現状を把握し、有効な対策を検討していく必要があります。



カワウ (Photo: 渡辺美郎)



## カワウの管理計画をより良いものに

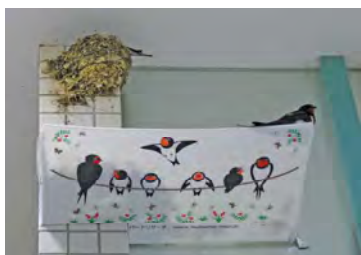
漁業者が川に放流したアユなどをカワウが食べてしまうことで、漁業被害が発生しています。その対策として、各地でカワウの捕獲が行なわれていますが、無計画にやっても被害は減らず、カワウも人も不幸なままです。都道府県行政の担当者が、被害の状況を正しく捉え、被害を減らすために必要な管理計画を自力で立案できるようになれば、不幸の連鎖から抜け出せます。そこで今年度は、環境省のカワウについての研修会でも、行政担当者を対象に計画の作成に重点をおいた指導を行ないました。また、千葉県、群馬県、鳥取県、広島県の計画作成に委員として関わり、適切な計画が作成されるよう働きかけました。この他にも、メールや電話での助言や、現地での指導を行ない、無計画な捕獲ではなく、被害を減少させるための計画の普及に努めました。



▲カワウの管理計画の作成についての研修会では、ポストイットに課題を書き出し、それをもとに対応策を考えました。



## ツバメの子育てに配慮を



▲京王線若葉台駅（神奈川県川崎市）に設置したツバメのフン受け



- 道の駅
- 個人宅
- 高速道路サービスエリア

ツバメは人の集まる場所に巣作りしますが、そうした場所では糞で汚れるのを避けるために、人が巣を壊してしまうことがあります。そこで、ツバメと人が仲よく暮らせるよう、簡単に取り付けられるプラスチック段ボール製のフン受けを製作し、全国の道の駅、サービスエリア、鉄道の駅などの公共施設と個人のお宅に配付しました。本事業は、(株)シー・アイ・シーと皆様からの寄付金で実施しました。

### ◀ ツバメのフン受けを設置した場所

# みんなで楽しく鳥類学



バードリサーチは、全国の鳥の生態や生息状況に興味を持って「調べてみよう！」という人たちとのネットワークを作り、わくわくするような調査や研究をみんなで一緒にできる団体でいたいと考えています。全国的な調査体制を広げにくために、この1年間に行なった活動をご報告します。



## バードウォッチング入門講座

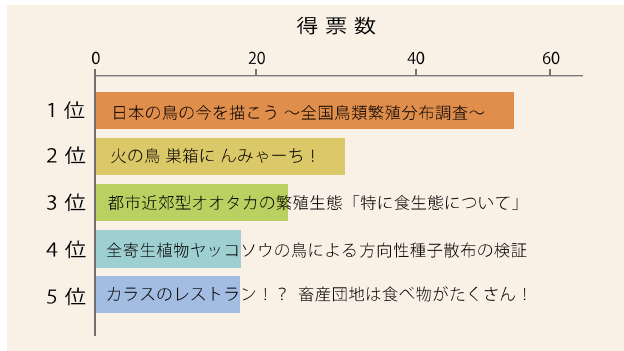
バードリサーチでは自然の大切さや調査研究の面白さを一般へ広げること、アマチュア研究者の層の拡大とレベルアップを目指しています。スーパーサイエンスハイスクール指定校の東京都立科学技術高校でバードウォッチング入門講座を行いました。室内で双眼鏡の使い方から鳥の基本生態、身近な鳥の識別の講座をし、その後、近くの公園で実際に身近な野鳥の野外観察を行いました。短時間でしたが、すっかり野鳥観察に夢中になった生徒さんもいました。



▲ 葛西海浜公園での観察会と室内講義の様子



## バードリサーチ調査研究支援プロジェクト



みなさまから少しずつの寄付を募って、それをもとに鳥類の調査や研究を行なう方に支援を行ないました。支援額の総額は64万6千円、これらを得票数で割り振り5件の支援先に贈呈しました。また、昨年度(2014年度)の支援先の結果がまとまり、支援者の方々へ調査結果の報告をしました。

BRNews 2015年12月:4、2016年4月:6

👉 2015年度の支援先の得票結果



## 鳴き声学習教材「スピードバーディング」を公開

鳥を覚えようとしたとき、一番難しいのが鳴き声を覚えることです。鳴き声学習の補助に昨年は「鳴き声クイズ」をつくりましたが、今年も新しい教材を追加しました。その名も「スピードバーディング」。

某英会話教材のように、聞き流しながら鳥を覚えらえる教材です。学校や会社の行き帰りに、ぜひご活用ください。

BRNews 2016年8月:2



## ニュースレターと研究誌の発行

研究誌「Bird Research」には今年10本の論文が掲載されました(2016年11月24日時点)。



## 調査へのご協力ありがとうございました。

ここまで紹介したものの以外にも、カモ類の性比調査を行いました。この調査はこれまで3年間実施して、毎年約300か所の記録が集まりました。カモ類は性比がオスに偏っている種が多いのですが、



コガモやホシハジロでは偏りに地域差があり、北の地域ほどオスの割合が高くなることが分かりました。理由は分かっていませんが、餌の豊富な生息地でオスがメスを追い出している可能性や、オスの方が繁殖地に近い場所で越冬している可能性などが考えられます。

BRnews 2016年5月:4



コガモ オス(右上)、メス(左下) (Photo: 守屋年史)

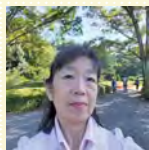
バードリサーチでこの1年間に行なった調査は、皆様に参加いただくことなしにはできなかつたものです。全調査をあわせ2143名の皆様にご協力いただきました。今年も活動にご協力いただき、ありがとうございました。

表紙写真：コルリ (Photo: 星野雄軌)

## STAFF



左上から時計回りに  
守屋年史、近藤紀子、奴賀俊光、加藤ななえ、佐藤望、植田睦之、高木憲太郎、神山和夫



黒沢令子



平野敬明



三上かつら

## 特定非営利活動法人 バードリサーチ

〒183-0034 府中市住吉町 1-29-9

Tel / Fax : 042-401-8661

E-mail : br@bird-research.jp

http://www.bird-research.jp

デザイン：いきものパレット

\*この活動報告はFSC認証紙を使用しています。